春の沢集中　恵那山

中津川　小菅谷

遡行日：０９年6月６～7日

メンバー　：志満、菊地、神戸、新井（記録）

今春の沢集中はちょっと馴染みの薄い山域へということで恵那山と決まった。百名山だが山友会では誰も行ったことが無いという未知の山である。沢の情報も少ない。箱根の峠より向こうは化け物が出ると言われて久しいが、さて、いかなる結末に・・・・　我らが小菅谷パーティーのリーダーは志満さん。いつも明るい頼もしいリーダーだ。仕事の都合で不参加の予定だった菊地さんも急遽参加できることになった。こうして２大巨頭を擁す超豪華２本立てパーティーとなったのであった。

6月5日　曇り時々雨

２２：００　海老名駅に集合。小雨が時折パラパラという空模様。予報では回復に向かっているとのこと。中央高速を一路、恵那インターへと向かう。進めっ！ダイハツアトレー！

6月6日　雲り時々雨のち晴れ

３：００　道の駅「らっせいみさと」着。軽く晩酌して就寝。

８：００　入渓点に到着。黒井沢林道の小菅橋付近に駐車した。しばらくは作業道のような道を歩き大きな堰堤をいくつか回避する。

９：００　沢仕度をして入水というところで雨が降って来た。沢の水量はとても少なく、ホントにこの沢？という感じ。この辺りでは深いところでも５０センチもない。

９：３０　2m×３段滝。やっと沢らしくなってた。階段状で楽に登れる。

９：４０　8m二条滝。右から巻く。落ち口から３mくらい下の木に捨て縄があった。

１０：００　明るく開けた所で休憩。標高８７０m付近。薄日が差してきてほっとする。「水が少ないね」「ちょっとペース速すぎ？」などと会話。もともと８時間のコースタイムの沢で、あまり上の方ではテン場が無さそうなので９５０m付近でのビバークを予定していた。初日は時間がありそうだったので中津川本流でちょっと釣りしてから入渓しようかとも話していたのだが面倒臭くて止めてしまった。小菅谷自体も魚影は見えないし、魚は期待出来そうに無い。この沢は全体的に剥がれ易い岩質で、剥がれ落ちた浮き石が多量にある上に茶色く滑り易いコケも生えている。初めは皆ちょっと滑っていたが徐々に慣れてきた。

１０：３５　2m＋3m＋2mの３段滝。ここも階段状で登り易い。

１０：５０　凹状8mナメ滝。幅７０cmほどのゆるやかな溝を水流が流れ落ちている。この沢のナメはナメとは言ってもツルっツルではなく、比較的凹凸はあり、ルートを探せばほとんどが直登可能である。ここの凹状滝も手足の突っ張りでホールドを拾いながら、志満さん、菊地さんはサッと登ってしまった。さあ、次はお前の番だ、という感じで上からニコニコ見ている。たいていそうだが、この滝も例にもれず、下の方に来るほど溝が拡がっている。釜の脇から取り付いて１～2m登ったところでツ

ル～んっ、ドボンっ！釜は腰までの深さだったが冷たい。今度はもう少し慎重に行くがまたドボンっ！３度目でようやく登れた。清水の舞台からはあまり落ちたくないものである。

１１：００　多段ナメ滝２０m。傾斜も緩く、ホールドも多く楽勝。

１２：００　９５０m付近まで来たのでテン場を探す。リーダーがかなり上まで偵察に行くがやはり上には無さそうだ。薪を集めてから上流、下流に釣竿を出してみるも全く反応なし。テン場に戻って来ると志満さんが薪の下にアヒルがいると言う。そんなバカなぁ、と思っていると「グワッ、グワッ」というアヒルのような鳴き声が集めた薪の下から確かにする。うーむ、恵那山にはアヒルがいるのかと見ていると、燃やした煙が集めた薪の山に吹き込んでいるではないか。ヤバいアヒルが死んじゃう、と慌てて菊地さんと二人で薪の山をどけてみるも何もいない。きっと大きい岩の下にカエルでもいるのだろう。な～んだ、まいっか、とまだ明るいのに晩酌モードに。金網で野菜、キノコなど焼いていると志満さんがシシャモを取り出す。さすがリーダー、魚が釣れないことを見越してたのね。すごく美味しくて「やっぱりシシャモは炭火に限るなぁ」などとバカを言いながら楽しく食べた。その後も志満さんお得意のすいとんなどを食べながら夜は更けていった。２１時頃就寝。

6月7日　曇りのち晴れ

５：００　起床。朝食担当の新井はメタを持って来ていない。リーダーに借りるも湿った薪の火付けに時間を食ってしまった。今思えばもっと簡単な朝食にすれば良かったのだ。三度の飯より四度の飯、が座右の銘の食当はわざわざフライパンなど出してきてベーコンやウインナーなど焼き始めた結果、出発が予定より遅れることになってしまった。どうもスミマセンでした。この遅れが最後まで響いてしまうことに。

８：００　出発。

８：１５　１０５０m付近の二俣を左に進む。この辺りから水流の当たっている岩や木が白くなってくる。どうやら温泉が湧いているようだ。魚が釣れなかったのが腕のせいではないと分かってちょっとホッとする。

８：３０　崩壊地。左からの崖崩れで完全に沢が埋まってしまっている。もう水は全く見えない。しかし、しばらくガレ場を行くとまた水が出てきた。

８：４５　２段１０m滝。流れのすぐ右側を登る。先頭で登った菊池さんがロープを出してくれる。落ち口のすぐ下までは難なく行くが、下がえぐれていて足を掛けるホールドが無い。え～い、こうなったら奥の手だ～、と水流ド真ん中を必殺？シャワークライムで何とかクリア。パ○ツまでぐっしょり。寒い。

９：３０　ＣＳ滝は直登はキビしそうなので左から巻く。

９：４０　8m幅広滝。流れの中ならホールドも多そうだったが水流で目が開けていられるかどうか。ここは小さく巻いた。

１０：１５　１２８０m付近。左から枝沢が１：５で流入。数少ない記録を見ると、最後の詰めで１～２時間のヤブ漕ぎを強いられている。地形図からこの枝沢を詰めた方がより少ないヤブ漕ぎで登山道に出られると判断し、こちらに進路を取る。少し進むとすぐ水は枯れてガレ場が始まった。このガレ場が長く危険で、時間も要した。とても急傾斜の上にほとんどの岩が浮き石か、力をかけると剥がれてくる状態で、かなり慎重に行かなければならなかった。

１１：１０　ヤブ突入。先頭は志満さんだったが、後半は新井も先頭を行ってみた。しかし、しっかりヤブを漕いで進むのは難しく、ルートも曲がってしまったりで、やはりヤブ漕ぎも経験を要するのだと実感した。

１１：５０　登山道の１５７０m付近に出た。リーダーの読み通りヤブ漕ぎは少なくて済んだ。皆で握手。靴を履き替えて一路、山頂小屋へ向かう。沢では定時無線連絡は通じなかったので、菊地さんが歩きながら無線通信を試みる。３０分ほど歩いただろうか、白土さんと交信できた。もう他の全てのパーティーが到着しているとのこと。我々は小屋までまだ時間が掛かりそうとのことで無線でしばし協議。１３時の到着は

難しいということで集合せずに下山することに決定。無念。

１２：４０　空峠（八右衛門の頭）１８０１mで休憩後、恵那神社方面へ下山開始。失意の下山であった（ちとオーバーか）。里まで下りてくるとカンカン照りで暑かったが、田んぼや農家ののどかな風景に心癒された。朝食の食当を責め立てるように何故か新井だけが犬に激しく吠え立てられた。ベストのポケットに大量の行動食を詰め込んでいたからかもしれないが。

今回の山行を振り返ると、集中に間に合わなかったのは２日目朝の出発が遅れたのが大きな要因だ。食当として大いに反省して次回に生かさなければならないと思う。また、情報が乏しく、後半に多くの滝や危険なガレ場、ヤブ漕ぎなどのハイライトが目白押しで時間を要したということもある。個人的には全てがとても勉強になり、また楽しめたが、会の皆さんには集中出来ずに迷惑を掛けてしまった。どうもすみませんでした。昨年も集中出来ていないので、次回は確実に集中して悪いジンクスを打ち破りたいと思います。ありがとうございました。

コースタイム

６月６日　　入渓点８：００～8m二条滝９：４０～８７０m付近１０：００～凹状8mナメ滝１０：５０～多段ナメ滝２０m１１：００～９５０m付近（ＢＰ）１２：００

６月７日　　ＢＰ８：００～１０５０m二俣８：１５～崩壊地８：３０～2段10m滝８：４５～8m幅広滝９：４０～１２８０m付近枝沢１０：１５～ヤブ突入１１：１０～登山道１５７０m付近１１：５０～空峠１８０１m１２：４０

地形図　2万５千分の１「中津川」